

# コロナ禍から市民生活を守り抜く！

## 総務経済委員会

●令和2年第2回定例会で総務経済委員会は

- ①狭山市税条例の一部を改正する条例
- ②狭山市事務手数料条例の一部を改正する条例
- ③令和2年度狭山市一般会計補正予算(第4号)

の3議案を審査しました。  
慎重審査の後、採決を行い、3議案共に総員賛成で可決すべきものと決まりました。



新型コロナウイルス感染症の市民への影響について討議する委員(委員間討議)

### ◆委員間討議↓所管事務調査

新型コロナウイルス感染症の市民への影響について、5月18日に委員間討議を行いました。  
この討議で「情報提供と経済支援の拡充」が委員間で共通する緊急課題であるとの認識に至り、現状確認のため、6月10日に調査対象が9課に及ぶ所管事務調査を行いました。  
委員から多くの発言があり、その意見を集約し、委員会の意見として、市に提言いたしました。  
今後、新型コロナウイルス感染症の關係に限らず、市民、事業者の安心・安全が維持できるような活動して参ります。



市への影響と対策について執行部から説明を受ける委員(所管事務調査)

## 文教厚生委員会

先ごろ、文教厚生委員会では、感染症の拡大や大規模災害を見据えて、オンラインビデオ会議システムを利用した討議の練習を行いました。

市民代表の集まりである市議会には、年齢はもちろん、資器材の運用技術にも差があるのが現実です。一方、災害などで一刻を争う事態を想定した場合に、複数人が一堂に会しての会議を実施することが難しくなることが想定されます。

このため、操作方法や運用上のルールなどを確認しあいながら、第一段階として、それぞれの委員の通信環境で討議の練習を行いま



# 有事に備え、オンライン討議の練習会を開催



当日は様々な場所から会議に参加

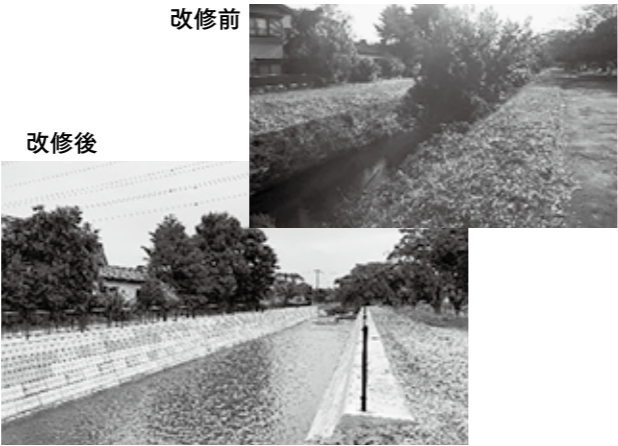
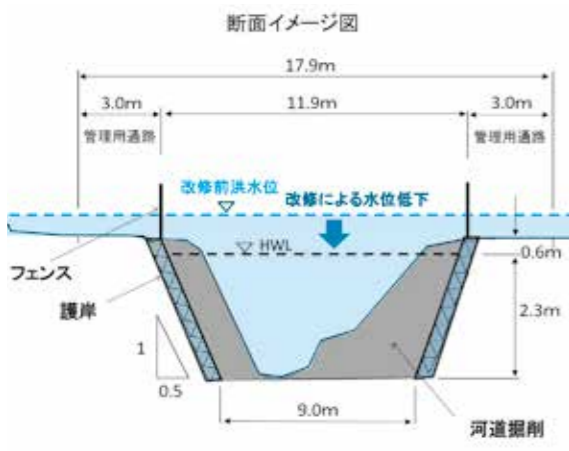
音声ははっきり聞こえずに對話が途切れてしまうことや、映像が止まってしまふこと、回線上の都合で接続が切れてしまうこともありました。まだまだ課題は山積しています。今後は、意見交換会など様々な場で活用できるようにするための研究を進めたいと考えています。試行錯誤しながらではありますが、着実に歩みを一歩ずつ重ねていくことが肝要であると考えています。  
今後も様々な状況を見据え、狭山市のより良い未来につながるよう、研鑽を積んで参ります。

# 不老川沿いの廃止路線を現地視察

## 建設環境委員会

不老川では、平成29年から令和4年までの期間において床上浸水対策特別緊急工事が進められています。

建設環境委員会では河道拡幅整備に伴う市道の路線廃止について、今期定例会に議案として上程され、委員会に審査が付託されたことを受け、委員全員による実地の踏査を行い、現況について詳細かつ多方面から確認しました。



周辺に住宅地が形成されている中、廃止する市道は旧入間村当時の河道に沿った曲がりくねった状況もあることから、河川区域をはみ出している箇所は、今後、河川の管理用地として使用します。  
また、地権者と県との協議により、拡幅用地と廃止する市道の一部の交換が行われる場合なども想定されます。  
なお、用地取得率は現在、約50%であることから、今後同様の事案について注視していきます。

# コロナ禍での議会運営とその課題

## 議会運営委員会

### ◆新たに顕在化(発見)した課題の解決のために

令和2年第2回定例会(6月定例会)では、新型コロナウイルスの感染リスクを避けるため、本会議場の換気、傍聴者や会議出席者の人数調整や議席のソーシャルディスタンスの確保など徹底的に3密を防止しました。

しかし、一般質問などは通常より発言の機会を縮小して臨んだため、議会の役割である行政の監視



議席のソーシャルディスタンスを確保



危機管理体制の強化を図っています(本会議場でのシェイクアウト訓練のようす)

や政策の提言といった本来の議会機能を保持することが非常時・緊急時を理由に軽視されてはならないといった課題も残っています。

委員会活動は二年目となり今年度の年間活動計画を策定しました。さらに市民にわかりやすい議会、危機管理体制の強化など、前年度から引き続き検討する事項とあわせて、オンライン会議などコロナ禍での議会について、新たに顕在化(発見)した様々な課題があります。これらを柔軟な思考と英知を駆使して解決していくことで、市民から信頼される議会を目指していきます。